



ニュースウォッチ 9

総合 毎週月曜～金曜 午後9時

2019年5月15日(水) NEWS

白血病治療に新薬 医療保険適用で最も高額に



桑子

「白血病などの患者に『希望の光』です。」

今日(15日)、『キムリア』という新薬に公的な医療保険が適用されることが決まりました。」

有馬

「ただ、その価格が『3,349万円』。」

医療保険が適用される薬の中では最も高額になるんです。」

新薬1回3,349万円 “白血病などの治療に効果”

新薬を待ち望んでいた患者団体。

今回の保険適用の決定に…。

グループ・ネクサス・ジャパン 天野慎介理事長

「やっと期待されていた新薬が承認されたことで、患者の期待がものすごく大きい。」

待ちに待った治療であるのは間違いない。」



白血病などの新薬「キムリア」は、「CAR-T細胞療法」と呼ばれる最新の「がん免疫療法」です。

その「CAR-T細胞療法」の仕組みです。

ヒトの体内にある免疫細胞のT細胞。

これをがん患者の体内から取り出して…。

遺伝子操作の技術を使い、がん細胞を捕らえる力や攻撃する力を高めます。



このT細胞を体内に戻し、より強力にがん細胞を攻撃させるのです。

対象となる患者は、標準的な治療法の効果が期待できなくなった、一部の白血病や悪性リンパ腫の患者です。

厚生労働大臣の諮問機関、中医協＝中央社会保険医療協議会は、この新薬に医療保険を適用することを今日、決定。

1回あたりの薬の価格を、3,349万円と決めました。

一方、健康保険組合連合会などは「注目されていた新薬であり、保険適用は極めて重要だ」とする一方で…。

健康保険組合連合会 幸野庄司理事

「高齢化と現役世代の人口減少が同時進行する中、団塊の世代が後期高齢者に入り始める2022年以降、医療保険財政はより危機的な状況になる。」



医療保険財政の厳しい現状を踏まえ、国に対応を求めました。

増える高額医薬品 医療保険財政に影響も

桑子

「医療保険の財政、制度のやりくりが厳しくなるというお話でしたね。」

有馬

「というも、今回の『キムリア』だけではありません。

価格が高い医薬品、これから増える傾向にあるんですね。」

今回の『キムリア』の価格、3,349万円ですが、ほかにも心臓病の薬、1,500万円。脊髄損傷の薬、1,500万円。」



桑子

「高額な治療薬って増えているんですね。」

有馬

「では、なぜここまで高額になってしまうのか、ということなんですけど、理由があるんです。

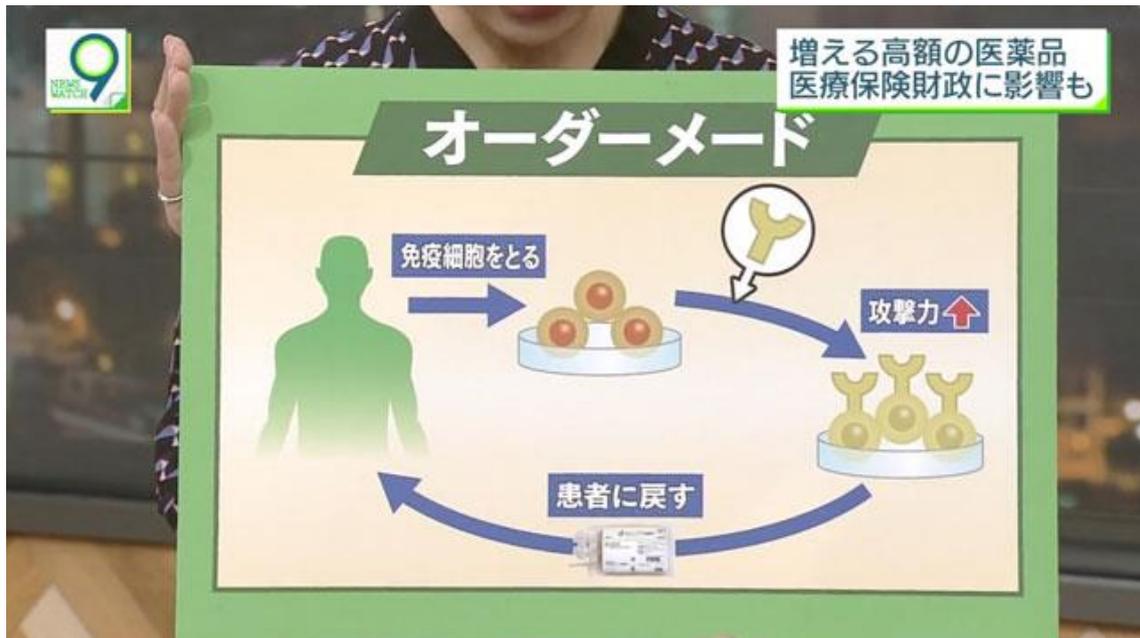
『オーダーメイド』だからなんです。

『キムリア』の場合、VTRにありましたけれども、患者の体の中から免疫細胞を取る、がん細胞を攻撃する力を高めて患者の体内に戻す。

オーダーメイド、ですよ。」

桑子

「患者一人一人にあわせて作るから、価格も高くなっていく、ということなんです。」



有馬

「これが保険適用となるとどうなるか、ということなんですけど、1か月分の支払負担がこうなるんですね。

所得が高い人でも一般的には数十万円。

医療費として払う額には年齢と所得に応じて上限がありますので、こうして負担を抑えられるわけなんです。」

桑子

「これは患者としてはずいぶん助かりますよね。」

有馬

「ただ、逆にいうと、医療保険がカバーするわけですよ。

保険料と税金などが、この残りの3,300万円を賄う形になるわけです。

こうした医薬品に保険が適用される例が増えていけば、医療保険の財政に影響を与えると心配する声は今、上がっているわけなんです。

この状況をどう考えるのか。

専門家はこう話します。」



新薬1回3,349万円 どうする 日本の医療保険

東京大学 田倉智之特任教授

「今後もそういった高額な薬がまだまだ出てくる。

日本の医療システムは大きな問題を抱えたまま、もしかすると(国民)皆保険制度自体がうまく回らなくなる可能性もありえると思う。」



がん患者の支援活動をしている人に話を聞きました。

羽賀涼子さんです。

羽賀さんは、16歳の時、急性リンパ性白血病を発症。

1年に及ぶ闘病の間、常に治療費が心配だったと言います。

白血病を経験 羽賀涼子さん

「請求書は私のベッドに来るので、金額はわかる。

普通に数十万円と見ていたので、それはそれは心配だった。

もちろん両親は“お金大変よ”とは言わなかったが、家族の中では家売るかもしれないという話にはなっていたようだ。」

およそ3,350万円という薬の価格について、財政を圧迫するという懸念が出されることは理解できるとした上で…。



白血病を経験 羽賀涼子さん

「もしかしたら治るかもしれないものが目の前にあっても使えない。

それはとてもつらいこと。

(使うのが)自分でいいのかなと感じる人がもしかしたらいるかもしれないが、生きていく上では、その人にとってはとても必要なものであれば、堂々と受けてもらって、元気になってもらうことが最優先なので。」



命を救う薬と、医療保険財政。

厚生労働省は今年度から、薬の費用と効果を検証し価格を下げるべきか検討する新たな制度を導入しています。

また、健康保険組合連合会などは、保険の適用範囲の見直しを国に提言。

今回の「キムリア」のように、個人での負担が困難な高額医薬品については保険を適用する一方で、ビタミン剤や湿布など、薬局で同じような市販薬が買えるものは、保険の適用から外すよう求めています。



限られる財源をどう配分するのか。

専門家は、生命に関わる大きなリスクを抱える患者を優先する必要があると指摘します。

東京大学 田倉智之特任教授

「困っている人、みんなで支えなきゃいけない患者をある程度優先していかないといけない。

簡単に言うと“ビッグリスク”をみんなで支えていく仕組みということ。

考えるきっかけに、キムリアのような高額医薬品はなるのではないか。」

新薬 1回3,349万円

桑子

「医療費は限られているわけですから、それをどう使うのか、きちんと議論するときが来ているということですね。」

有馬

「田倉さん、こういうふうにも話をしていました。

『今、医療費がどう使われているか、費用に見合う医療が行われているか、そして、どう負担すべきなのか。特に今、医療保険を支えている現役世代の皆さんに関心を持ってほしい』と話されていました。」